ファミリー・ホスピス株式会社　コミュニケーション支援広報誌

OASIS の風

-hear your heart-

ナーシングホームOASIS北

R4年6月号

入居者様の声

M・H 様：パーキンソン病：ﾅｰｼﾝｸﾞﾎｰﾑ OASIS 北入居中
コミュニケーション支援機器使用なし

入居して約 9 か月が経ち、入居時希望されていたデイサービスに週 2 回通所されています。しかし、病気の進行に伴い**発声が徐々に難しくなり、デイサービスの職員や他の利用者様とのコミュニケーションが億劫になっている**と悩まれています。現在、発声困難感はあっても、機器等使用なく口頭にてコミュニケーションを行えていることに加えて、**今後声が出なくなってしまう可能性があることに対してのイメージがつかない**とのことで、コミュニケーション支援機器の使用希望なく過ごされています。
施設の職員ともコミュニケーションをとりたいと思われていますが、自分の思っていることが上手く伝わらないことも多く、会話の頻度は減ってしまっています。
上肢の動きは比較的良好で新聞を読んだり、
テレビのリモコンの操作は行えます。

神経難病の症状の進行度合は人それぞれであり、一概に言えることではありませんが、**現状できていることが今後も維持できるとは限らない**ものです。
どのような支援機器があるのか知ることや、実際に触れてみることに早すぎるといったことはありません。
現状の残存機能にあったコミュニケーション支援機器導入を
早期検討していくことが円滑な意思疎通に必要不可欠となります。

スタッフの声

U さん：訪問介護師：ケアコール北所属：2 年 6 ヶ月

コミュニケーションを行う際、挨拶と傾聴を大切にしています。
利用者様の気持ちを知れるように、自分の気持ちを伝え、常に声掛けを行い、信頼関係を築いています。信頼関係を構築する中で、元気よく挨拶をすることが大切だと思います。又、意思疎通がとれない利用者様には、ケアをしながら声掛けを行っていて、今から何をするのかを伝えることで、不安なく過ごして頂ける様に心掛けております。
傾聴を行う際は、利用者様の話を遮らない様にすることを心掛け、相槌を打ち、話しやすい環境を作っています。そうすることで、困っている事や、言いにくい事が、いいやすい環境になり、不満の改善にもつながると思います。
これからも、挨拶と傾聴を大切にしていき、過ごしやすい生活を送ってもらえるように、コミュニケーションを大切にしていきます。

トピックス

難病の方のコミュニケーション障害

難病の方のコミュニケーション障害は大きく分けて 3 つに分類されます。

①気管切開
声門を空気が通らないので発声できませんが、スピーチカニューレなどを使用すると発声する事ができます。

②球麻痺（仮性球麻痺）症状
舌や喉の筋肉を動かす神経が機能しなくなるので発声がし辛くなります。

③構音障害
小脳失調やパーキンソン症状により、舌や口の動き協調運動がとれず、下が回らないような話し方となります。

ファミリー・ホスピス株式会社（旧ナースコール(株)）